

4 Flexible InterConnect (FIC)

各種ICTリソースをセキュアに接続し直感的なUIによる一元管理／オンデマンド利用を可能に

“Smart Data Platform (以下、SDPF)” においてさまざまなICTリソースをつなぐ中核的な役割を果たす“Flexible InterConnect (以下、FIC)”。NTT コミュニケーションズ (以下、NTT Com) はこのFICにより、ネットワーク (以下、NW) だけでなく各種ICTリソースをオンデマンドで簡単に利用可能にする取り組みを進めている。

クラウド・SaaSのような使い勝手でICTリソースを利用／管理可能

デジタルトランスフォーメーション (DX) の進展に伴い、マルチクラウドの活用がますます重要になっている。FICはこのマルチクラウドへの対応に優れており、お客さま拠点からデータセンター、各種クラウドまで閉域網・ワンホップでセキュアに接続し、End to Endかつ一元的なICTリソース管理を実現する (図1)。SaaSのように使い勝手が良くセルフマネジメントしやすいことも特長の1つだ。たとえば

AWSに接続する場合、ポータル画面上で直感的なUIにより接続の購入から経路／帯域の設定、接続まで行うことができる。

「新しい当たり前」を付加価値に

NTT ComはこのFICのさらなる付加価値向上に力を入れている。「GUIやAPIベースで利用できるという『今どきの当たり前』をFICでも当たり前にしてきました。その上で、NWの利用予測などNTTグループのCognitive Foundation® 構想に基づく価値の提供、キャリアグレイドのセキュリティ／信頼性の再



NTTコミュニケーションズ株式会社
プラットフォームサービス本部
データプラットフォームサービス部
開発オペレーション部門
担当部長 森信 拓氏

定義と提供、さらにワンストップでの契約や請求の実現、といったことを『新しい当たり前』にし、付加価値を高めていく考えです。これによりお客さまに選んでいただける『Preferred ITベンダー』になりたいという思いがあります。」(森信氏)

パートナーがXaaS提供に利用しやすいようFICをオープン化

セキュリティや安定性の観点からIaaS、PaaS、SaaSなどのいわゆるXaaSを閉域網で利用したいというニーズが増加している。しかしXaaSを提供する企業がこのニーズに応えるには技術的、コスト的な負担が大きいという課題があった。

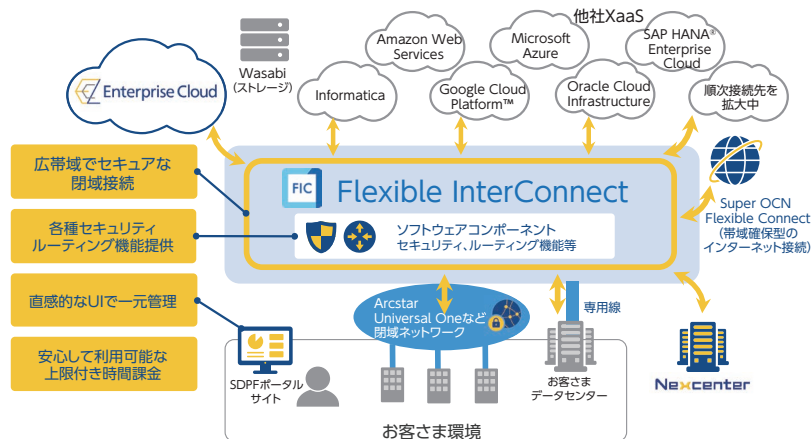


図1 Flexible InterConnect (FIC) の全体像

NTT Com は解決策として、FIC 基盤上でこうした XaaS を提供しやすくする「XaaS 向け接続機能」を 2020 年 4 月より提供している。この機能を使って提供される XaaS は FIC のポータル画面に接続メニューが表示される。利用者に FIC を意識させない形でのサービス提供も可能だ。

XaaS 提供企業は設備投資を抑えつつ顧客拡大につなげやすい。また FIC を利用するお客さまはさまざまな XaaS への接続を FIC でまとめ、安全に利用できる。

接続サービス・アクセス方式の拡充やモニタリング機能追加を実施

NTT Com は FIC のサービス拡充や機能追加を順次行っている。以下、2021 年 1 月に追加された最新のサービス・機能を紹介する。

Super OCN Flexible Connect

帯域確保型のインターネット接続サービスを FIC 経由で利用できる。開通、帯域変更、グローバル IP アドレスの払い出しなどをポータルからオンデマンドで実行できる。サービスの最低利用期間がないため、不要になったらすぐに利用廃止することも可能だ。用途に応じて複数のインターネット接続を用意していたようなケースでは集約によるコスト削減が可能のほか、一元管理が可能になることもメリットの 1 つだ。

Oracle Cloud Infrastructure (OCI)

ミッションクリティカルなワークロードに対応した Oracle 社のクラウド・インフラストラクチャーに対し、いち早くオンデマンドでの接続を可能にした。接続自体は VPN サー

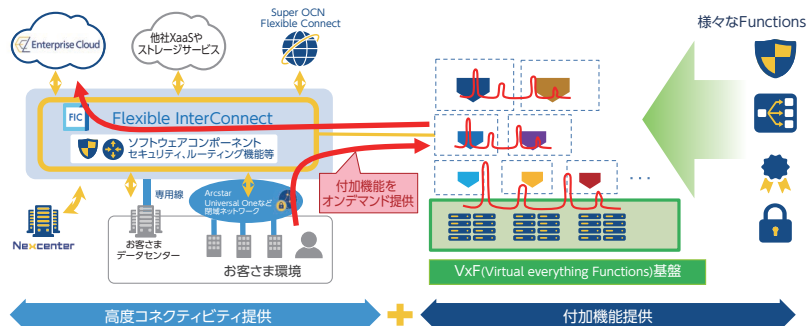


図 2 セキュリティ、高度トラフィック制御等のネットワーク付加機能をエッジで実現可能なネットワーク高速処理に重点をおいた VxV 基盤

ビス“Arcstar Universal One (UNO)”のオプションでも可能だが、FIC の接続サービスはオンデマンドであるほか接続コストを大幅に抑えることができる。

AWS Transit Gateway

AWS の仮想ネットワークサービス“Amazon Virtual Private Cloud (VPC)”の相互接続や閉域接続インターフェイスの集約などが可能な“AWS Transit Gateway”への接続も FIC のポータルから行えるようになった。特に VPC 数の多い大規模な AWS 環境を運用している場合は運用の簡素化やコスト削減の効果が大きい。また FIC から AWS に接続する際の帯域は従来 1G が上限であったが、本サービスの提供により 2G ~ 10G の広帯域メニューも用意された。

デザイン思考からのモニタリング機能強化

トラブル発生時に想定どおり経路が存在するか確認するような場面で便利な「経路表示画面」、また経路数がクラウド事業者側の上限を超えたらリアルタイムで通知するアラート機能が追加された。NTT Com が顧客体験向上の為に取り組んでいるデザイン思考活用の成果であり、社内外の実オペレーターの声を取り込んだ。

VxV 基盤を活用した付加機能の提供など、今後も順次サービスを拡充

“VxV 基盤” (図 2) を活用したキャリアグレードのエッジによる NW 付加機能の提供も今後期待されるトピックの 1 つだ。仮想化技術によってさまざまな NW 付加機能を実現し、エッジ端末で処理できるようにする。NTT Com 自身が NW 付加機能を開発・提供するのはもちろん、パートナーやお客さまが独自の NW 機能を実装できるようにする。SDPF を核とするエコシステム創造を狙っており、すでにパートナーとの実証実験も実施されている。

このほか 2021 年度末に向けグローバルな対応エリアの拡充、自社・他社のさまざまなサービスとの接続メニュー追加、また有料保守メニュー追加などが予定されている。

「サービスや機能を拡充し ICT インフラの SD (Software Defined) 化を進めるのに伴い、今までかなり日数を要していたこともオンデマンドで実行可能になっています。これにより ICT インフラに対するお客さまの考え方もフレキシブルになっており、特に運用面での良い影響を期待しています。」 (森信氏)